

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 特別支援教育第180号

—小学校、中学校、高等学校、特別支援学校対象—  
平成27年4月発行

### ユニバーサルデザインを生かした通常の学級における指導の在り方 —高等学校の実践を中心に—

小・中学校の通常の学級においては、発達障害等のある児童生徒も含め、学級全体への支援として、分かりやすい授業づくりの考え方を取り入れた実践が行われている。具体的には、板書の工夫などの教室環境の見直しや視覚的な表示、学習ルールの明確化などにより、授業が分かりやすく、一人一人の特性に応じた学習環境になりつつある。

また、高等学校においては、生徒の学ぶ意欲を高め、自立する力を伸ばすために、引継ぎ資料等を活用し、分かりやすい授業、個に応じた評価方法等の工夫など、小・中学校での支援を継続することが大切である。

そこで、本稿では、高等学校における発達障害等のある生徒に対する分かりやすい授業づくりについて、ユニバーサルデザインを効果的に活用するための工夫や実践例を述べる。

#### 1 ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」とは、1985年に、アメリカノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス氏が提唱した考え方である。使う人に必要な情報がすぐ分かる、使い方が簡単に分かる、身体的に少ない力で効率的に使うことができるなど、あらゆる

人にとって使いやすいデザインのこととして定義されている。

また、①公平であること、②自由度が高いこと、③簡単であること、④分かりやすいこと、⑤安全であること、⑥疲れず持続できること、⑦アクセスしやすいことをユニバーサルデザインの7原則としている。

#### 2 高等学校における特別支援教育

##### (1) 高等学校における現状

高等学校は、教科担任によって指導の仕方が違ったり、課程や学科等の違いなど教育のシステムが多様化したりすることから、発達障害等のある生徒にとっては、学校生活に見通しがもてなかったり、ルールの理解ができなかったりする現状にある。そのことは、授業だけでなく、試験や進路指導等においても同様である。

また、不登校などの二次障害から、進路変更・中途退学せざるを得ない状況も見られる。

##### (2) ユニバーサルデザインの必要性

高等学校における指導・支援を充実させていくには、個への配慮・支援の前に、学級集団全体への働き掛けが必要である。

また、生徒は思春期の課題を抱える時期であり、学習面や生活面の様々なつまづきとともに、対人関係の問題、周囲との違いに気付くことによる自己理解等も不安要因になりやすいことから、生活年齢に応じたさりげない支援が大切である。

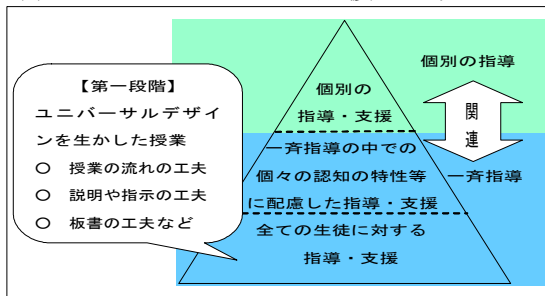


図1 学習指導の基本的な考え方

図1は、当教育センター研究紀要第116号の「指導・支援の段階的な考え方」から、学習指導の基本的な考え方を示したものである。このように階層的に考えると、まず、全ての生徒に対する指導・支援を充実していくことが大切であり、そのために、教育においても、ユニバーサルデザインを生かした授業を展開することが大切である。

高等学校においても、図1に示しているように、授業の流れの工夫や説明・指示の工夫、板書の工夫など、学校全体で、ユニバーサルデザインの視点に立った指導の在り方を共通理解し、取り組んでいくことが必要である。

### 3 ユニバーサルデザインを生かした指導

教育におけるユニバーサルデザインとは、生活年齢や障害の有無に関わらず、「より多くの児童生徒にとって、分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザイン」と考えることができる。

ユニバーサルデザインの視点に立った教

育を考えていく際に、阿部（2014）がまとめた文献を参考に、教育のユニバーサルデザインを図2のように3視点に整理した。

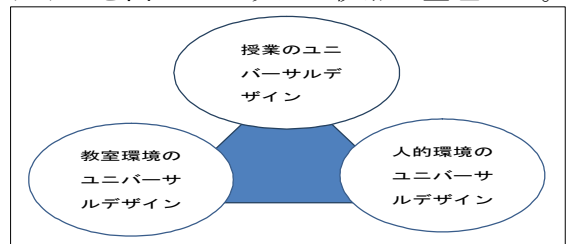


図2 教育のユニバーサルデザインの3視点

授業のユニバーサルデザインとは、授業で教えるときの工夫であり、教室環境のユニバーサルデザインは、掲示物等の物理的なもの、人的環境のユニバーサルデザインとは、友達や学級の関係性のいい雰囲気、教師の関わり方や適切で分かりやすい言葉掛けなどである。

#### (1) 授業のユニバーサルデザイン

教師は、机間指導等、個別に指導をする前に、全体の生徒にとって「分かりやすい」授業を目指すことが大切である。

授業のユニバーサルデザインでは、教育環境の基礎として、一人一人のニーズに合わせた細やかな配慮を行っていくことが望ましいと考える。生徒に興味・関心を抱かせ、主体的な活動ができるような工夫が必要で、教師は生徒の理解度に合わせ、言葉掛けや教材・教具の提示の仕方、指導の内容等を柔軟に工夫することが大切である。

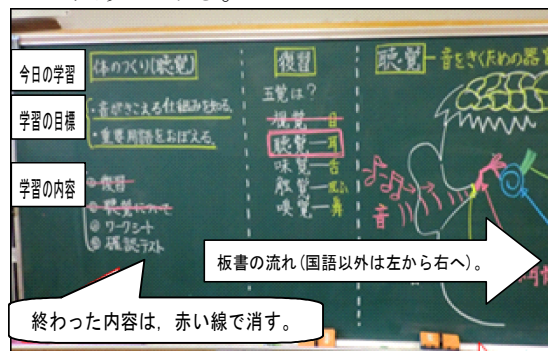


写真1 色チョークの使用や板書を統一した授業

写真1は、授業の際に、授業の流れをカードで示したり、授業の展開、板書の仕方などを統一している例である。また、板書の際には、色チョークの使用を統一したり、書き方にルール性をもたせたりする工夫を行っている。視覚的な情報やルールの提供により、生徒が見通しをもちやすくするための授業の工夫の一つである。

## (2) 教室環境のユニバーサルデザイン

教室環境は、授業に集中できる環境をつくる工夫が大切である（写真2）。



写真2 整然とした教室環境

写真2のように、教室前面、黒板周辺や教師の机周辺をすっきりと整理することで、生徒の集中力が高まり、学習に集中することができる。また、学級や学習のルール等、必要な情報を掲示することで快適に学校生活を送ることができる。



写真3 工具置き場を視覚的に提示

また、写真3は、工具を置く場所に、工具と同じ形のマークを描くことで視覚的に分かりやすくして、その場所に置くというルールを設定した工夫である。

## (3) 人的環境のユニバーサルデザイン

教師の生徒に対する言葉掛けや関わり方も、人的環境の一つである。肯定的で、

より具体的な言葉掛けを行うことで、生徒が理解し、活動しやすくなる。以下に具体例を示す。

肯定的で具体的な言葉掛け例
「ちゃんと聞きなさい。」 ⇒ 「話す人の顔を見て聞きましょう。」
「早く準備しなさい。」 ⇒ 「〇分までに準備をしましょう。」
「後で職員室に来なさい。」 ⇒ 「〇時〇分に、職員室に来てください。」
「早く課題を出しなさい。」 ⇒ 「〇曜日までに〇教科職員室に課題を出しましょう。」
「制服をちゃんと着なさい。」 ⇒ 「シャツをズボンの中に入れてみましょう。」

また、生徒同士が「支え合う、学び合う」学級環境を育てることが大切である。学級経営では、お互いのよさを認め合う雰囲気づくりに努めたい。

教師の適切な関わりが生徒のモデルとなり、生徒同士の「支え合う、学び合う」環境づくりの工夫の一つとなる。

## 4 学校全体で取り組むユニバーサルデザイン

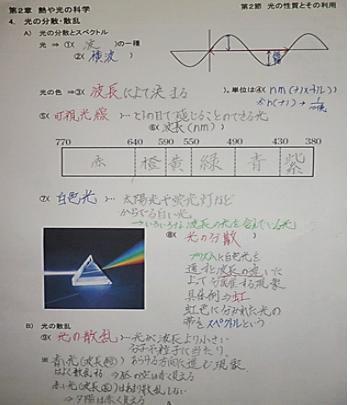
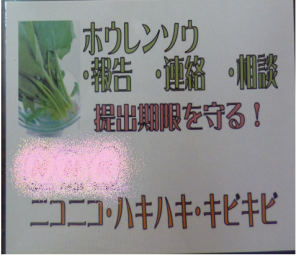
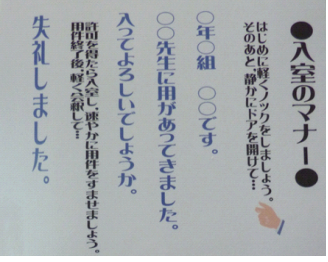
分かりやすい授業づくりに効果的に取り組むためには、職員会議や校内研修等で、定期的に教育のユニバーサルデザインの共通理解と実践報告などを行うことも必要である。また、前述した3視点の具体例等について、学校全体で共通理解することが大切である。

なお、その前提として、学級の生徒たちと信頼関係を築き、集団の楽しさや学習することの楽しさを教えていくことが支援のベースである。以下に、あるクラスの「柔らかな雰囲気学級づくり」例を示す。

- 「どんな学級にしたいか」丁寧に説明
- けなげで真面目な生徒を大切に
- 生徒との約束は守る
- 時には、「謝る勇気」を
- 気になる生徒への配慮をさりげなく
- あたたか言葉による支援  
(優しく温かい言葉や言葉遣い)



5 高等学校におけるユニバーサルデザインの視点に立った授業の実践例

<p>A 高等学校におけるユニバーサルデザインの視点に立った実践例の一部を「学習面」、「生活面」に分け、紹介する。担任が、以下の実態の生徒に対する指導・支援を行ったことで一定の効果が挙げられたことから、教科部や学年部へと広がり、学校全体の取組となった事例である。学校全体で取り組んだことで、学力の定着が図られ、生徒指導上の課題も少なくなった事例である。</p> <p>【学習面】 板書をノートにうまく書き写すことが難しかったり、集中力が持続しなかったり、授業内容に見通しがもちにくいなど、学力の定着が困難な生徒。</p> <p>【生活面】 学校でのマナーやルールの理解が困難な生徒。</p>		
	<b>学習場面等での工夫</b>	<b>生徒の様子や変化</b>
<b>学 習 面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師は、授業開始2～3分前に教室へ入室（教材の準備を促し、忘れ物がある場合は事前に連絡→ルールの確認）</li> <li>学習内容の提示により、授業の見通しを図る工夫</li> <li>基本的内容等は注視を促す丁寧な説明</li> <li>色チョークの工夫や書く時間等、ルールの設定</li> <li>板書計画に沿ったワークシートの作成と活用</li> <li>実態に合わせた課題の量の調整</li> <li>プリント等を整理する専用ファイルの準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のルールを理解し、見通しをもつことで安心感がもてた。</li> <li>「注視・復唱」の指示で内容の確認ができた。</li> <li>色チョークやワークシートの工夫により、板書を書き写すことができるようになった。</li> <li>各教科担任で連携を図り、生徒の実態に合わせた課題の量（各教科の合計量の確認）や出題形式の統一により、「提出物は出す。問題は解く。」という意識付けができた。</li> <li>プリント等の整理ファイルを複数準備したことで、整理の仕方が分かり、「こうすればできる。」を実感できた。</li> </ul>
<b>生 活 面</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室環境の整備（連絡板設置と整理整頓の徹底）</li> <li>職員室入室時の作法などの掲示</li> <li>各教室に、基本的なマナーやルールの分かりやすく掲示</li> <li>教師が手本となる言葉掛け、言葉遣いの励行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物を項目ごとに整理し掲示したことで、情報が整理され、分かりやすくなった。特に、各教室に、報告・連絡・相談や提出期限等の掲示をしたことにより、ほぼ全員の生徒が報告や期限内の提出ができるようになった。</li> <li>職員室への入室方法を入りに掲示したことにより、ほとんどの生徒がマナーを守れるようになった（職員の顔写真入りの座席表も作成）。</li> </ul>
	 <p>板書事項記載のワークシート</p>	
	 <p>各教室の掲示物</p>	 <p>職員室入口の掲示物</p>

教育のユニバーサルデザインは、特別な支援が必要な児童生徒にとっては、「ないと困る支援」であり、全ての児童生徒に「あると便利な支援」である。このことは、ある学校種や教科に限ったことではなく、全ての学校生活にわたる視点である。ユニバーサルデザ

インを生かした分かりやすい授業の展開が、多くの学校で推進されることを期待する。

—引用・参考文献—

- 阿部利彦 編著「通常学級のユニバーサルデザインプランzero」平成26年、東洋館出版社
- 柘植雅義 編著「ユニバーサルデザインの視点を生かした指導と学級づくり」平成26年、金子書房（特別支援教育研修課）